



岐阜北週報

8月 会員増強及び拡大月間

□題 字	波多野 光裕	□会 長	波多野 光裕	
□例 会	毎週水曜	□副会長	長野 鉄司	2011-2012
□会 場	岐阜都ホテル	□幹 事	松野 秀計	No.1412
		会報委員長	西垣 康紀	11.8.24 発行

前回の記録

第 1411 回例会 8/10 (水)
クラブアッセンブリー (4)
I. A. C 年次大会報告
担当：インターアクト委員会

本日の予定

第 1412 回例会 8/24 (水)
クラブフォーラム (1)
担当：会員増強委員会

次回の予定

第 1413 回例会 8/31 (水)
クラブフォーラム (2)
担当：出席委員会

会長挨拶 【波多野 光裕 会長】

昨日は、第34回インターアクト年次大会があり、岐阜城北高校の先生・生徒さんたちと、会場である飛騨高山世界生活文化センターに行ってきました。高山で生まれ育ち、現在宮城県名取市でクリニック院長をしてみえる桑山紀彦先生による映像と音楽とお話のコンサート「地球のステージ」には、まさにロータリーの精神・インターアクトの精神が満ちあふれていたと思いました。この大会の報告につきましては、後半の部で参加された先生・生徒さんから発表されますのでご期待下さい。

岐阜城北高校のインターアクト・クラブは、1992年に創立されています。今年のインターアクト・クラブには50人を超えるメンバーがみえるということです。

インターアクト・クラブは、奉仕と国際理解に貢献する世界的友好精神の中で共に活動する機会を12歳から18歳までの青少年に与えるために結成されたクラブです。インターアクト・クラブは、支援や指導を与えるロータリー・クラブが提唱して結成されますが、運営面でも経済的にも自立しています。クラブ会員の構成はさまざまです。男子のみ、女子のみのクラブもあれば、男女混合からなるクラブもあり、その規模も大小さまざまです。

奉仕活動は、インターアクトの活動の真髄です。奉仕活動を行うことでインターアクターたちは次のような大切なことを学びます。

会長挨拶続き

- ・指導力と人間としての高潔さ
- ・他者を助け、他者を尊重すること
- ・個人の責任と懸命に努力することの価値
- ・国際理解と親善を推進すること

ロータリーの奉仕の中で最も顕著かつ急速に発展しているプログラムの1つであり、109余りの国や地域にある10,700以上のクラブを擁するインターアクトは、世界的な現象となりました。現在、200,000人近くの若者がインターアクトとかわりを持っています。

今日の若者は、将来親となり、専門職業家や産業界のリーダー、そして社会のリーダーとなっていきます。インターアクトのようなプログラムを通じて、若者は、責任を持ち社会に貢献できるような成人となるための知識や技術を身につけることができます。インターアクトの参加者は、このプログラムを通じて、生涯役に立ち、その後の世代にも引き継がれていく力を身につけることができます。

インターアクターは、ロータリーアクト・クラブ結成の先駆的存在となり、また、青少年交換学生、または国際親善奨学生となる人もいます。ロータリー・クラブは未来に目を向け、新世代の若者たちが自分の才能を開花し、新たな能力を身につけ、人生の中で直面する課題に立ち向かっていくことができるよう育てていく必要があるのです。

出席報告

会員数：32名
 出席数：24/32名
 出席率：75.00%
 欠席者：8名（出席免除2名 81.25%）
 来訪者：4名 岐阜城北高校
 森嶋先生、国江遥菜さん、
 高木咲依さん、樋口麻衣さん

ニコニコBOX

河村 訓陸・若山和正
 ・岐阜城北高校インターアクトの皆さんをお迎えして
 前田 吉彦
 ・昨日、高山インターアクト年次大会に参加し有意義な時間を過ごさせて頂きました。
 安藤 武司・片桐順一郎
 ・暑い毎日が続きます。暑さに負けないよう。

委員会・同好会報告

- 社会奉仕委員長：岡田 忍
 - ・若松学園キャンプ参加協力要請
平成23年8月22日（月）16時集合
- 会員増強委員長：森本 時夫
 - ・本日ボックスに新会員推薦予定者カードを入れておきました。ご協力をお願いします。
- ゴルフ同好会 世話人：長野 鉄司
 - ・本日、9月度（9月8日（木）ヴォヴェールC.C）のゴルフ案内をボックスに入れさせて頂きました。
「知的障害者に愛の手を」チャリティゴルフに協力します。多数ご参加ください。

幹事報告

- 幹事 松野秀計会員
 - ・長良川ロータリークラブとの合同例会
平成23年10月1日（土）18時15分
岐阜グランドホテル
参加費3,200円個人負担・例会費より2,800円
 - ・東日本大震災東北壊滅R.C支援策「ファイブ・フォー・ワンクラブ」について、ガバナーより協力要請がありました。幹事会で他クラブの動向を見て幹事判断としたい。

I.A年次大会報告

○担当：河村 訓陸

昨日、8月9日（火）地区I.A年次大会が飛騨高山生活文化センターに於いて開催され、岐阜城北高校I.A.C顧問、森嶋・赤坂先生、I.A.C生徒5名、波多野会長、前田I.A副委員長の9名が参加しました。今日は、その報告をして頂きます。

○森嶋先生ご挨拶

日頃は城北高校には何かとご支援いただき有難うございます。現在、私たちの高校は、校訓である「至誠・進取・練磨」心と身体を磨き何事にも誠実に取り組む生徒を目指すよう進めています。

今回、インターアクト年次大会に生徒共々出席させて頂き、誠に有難うございました。出席するまで何かと生徒達は不安なようでしたが、NPO法人、地球のステージ、Dr 桑山先生の講演をお聞きし、生徒達は大変感激し、帰りにはみんなの顔が生き生きとしておりました。

このような機会を与えて頂き本当に有難うございました。

第34回インターアクト年次大会に参加して

○こんにちは 岐阜城北高等学校 国江遥菜です。
 昨日は、電車に乗って話しているうちにあっという間に高山に着きました。
 もらったパンフレットを見ると、韓国の方が来ているのが分かりました。式が始まると韓国の方がダンスを見せてくれました。今流行しているKARAや少女時代の歌に合わせて踊ってくれました。お昼ご飯を食べた後、勇気を出して友達と韓国人の所に行き、話しかけてみました。いろいろなことを話す事が出来て、写真を撮る事が出来ました。私は韓国語を勉強しているので、実際に韓国語で話しをすることができて楽しかったです。韓国語で「彼氏いる？」と聞くと、二人で撮ったプリクラを見せてくれました。

午後からは、桑山さんの話を聞いて東日本大震災の津波の映像を見ました。言葉にならないぐらいの衝撃を受けました。町の人たちに避難を呼びかけていた消防士の歩さんは、津波警報が出ているのに避難しない人の説得にまわっていたそうです。津波にのまれてしまい発見されたとき、マイクを握ったまま亡くなっていたそうです。私だったら、自分が逃げるのに必死で、他人の事まで考えられないかもしれないと思うと、なんともいえない気持ちになりました。地震から5ヶ月経った今も5000人近くの人が行方不明だそうです。こうして普通の生活が出来た事に感謝して、私にできることを考えたいと思います。

また、機会がありましたらこのような交流会に参加してみたいと思いました。ありがとうございました。

第34回インターアクト年次大会に参加して続き

〇こんにちは。岐阜城北高校の高木咲依です。

行く前は、「せっかくのやすみなのに…」と思っていました。しかし、高山の街は昔を感じる街で、同じ県でも違う街もあるのだと思うと少し楽しくなってきました。大会では、まず開会式の後、韓国の方がダンスを披露してくれました。私も知っているアーティストの曲もあり、楽しんで見ることが出来ました。

そしてなにより私が心打たれたことがあります。桑山紀彦先生という医者のお仕事をされながらボランティア活動を積極的にされている方の弾き語りです。その中でも感動した話は6歳のジェシカちゃんのお話でした。いつも「Give me money… Give me money …」と言って観光客にお金をもらっている、家もなくとても貧しい生活をしている少女です。桑山先生はお金ではなく、風船を膨らませてジェシカちゃんに渡しました。桑山先生は、お金の代わりに風船を渡したので、ジェシカちゃんは怒ってしまっていたと思います。けれどジェシカちゃんは笑顔で「ありがとう」と嬉しそうに言いました。彼女はお金に貧しくても心はとても豊かな少女なのだと思いました。

東日本の震災で生きるのも精一杯な人も同じ日本でたくさんいるけど、ジェシカちゃんみたいに心は豊かに頑張してほしいと思います。早く復興できるように、私は私ができる募金活動などに積極的に参加していきたいです。年次大会ではとてもよい時間をすごさせていただきました。ありがとうございました。

〇こんにちは 岐阜城北高校1年生樋口麻衣です。

8月9日に第34回年次大会に参加するために高山へ行ってきました。大変楽しくて、年次大会に参加できて本当によかったと思っています。午後は『地球のステージ』という講演会がありました。高山市出身のお医者さんの桑山紀彦さんが映像を流しながら弾き語りをしてくれました。はじめは、桑山さんの海外旅行の話だとか、世界5大陸の一番高い山を見て歩いた話などでした。パレスチナ ガザ地区で医者として働いていた時のお話もとても興味深かったです。戦車が自分に機関銃を向けて空砲を撃ってくるなんて想像もできません。フィリピンでの、ゴミの中で住んでいる子どもたちのお話もありました。

海外の話も面白いなあと思って聞いていましたが一番印象に残ったのは、最後にしてくださった名取市閑上のお話でした。桑山先生が住んでいる地区にあった5つのクリニックは、3つが津波で流されて1つは浸水してしまいました。地区に残った唯一のクリニックとして3月11日からずっと24時間、患者さんを受け入れ続けていたそうです。桑山先生が体験した震災の話は、どれも本当にすごいお話でした。女子中学生が学校の校舎から撮影していた、

第34回インターアクト年次大会に参加して続き

町が津波に飲み込まれていく様子を残した映像には、たくさんの人たちが走って津波から逃げようとしている様子が映っていました。カメラの周りで「逃げて！」と叫んでいる中学生たちの声が今でも耳に残っています。

一番印象に残ったのは桑山先生のお友達、歩さんが亡くなった話でした。歩さんは地区の消防団員でした。地震の後津波警報が出て、消防車で避難を呼びかけて回っていました。でも3月10日にあった地震では大きな津波が来なかったこともあって、多くのお年寄りや避難しようとしなかったそうです。歩さんは、なかなか動こうとしない町の人たちを一人一人説得して回っているうちに津波にのまれて、消防車の中でマイクを握り締めたまま遺体で見つかったそうです。わたしは、歩さんのお話を聞いて自分の命も危ないのに、消防団員として他の人たちの命を守ろうと最後の最後まで説得しようとして、少しでも多くの人を救おうという勇気がすごいなあと思いました。私だったら自分より他の人を助けようなんてできないし、自分優先にして避難してしまうと思います。

今回の年次大会は、行く前は何をしに行くのかも分からず少し不安でした。けれど、参加することができて良かったと思っています。今回の大会は、私の人生をちょっと変えたかもしれません。

このようないい刺激を受ける機会を作っていたいだ岐阜北ロータリークラブの皆様は心から感謝いたします。ご清聴 どうもありがとうございました。



次回例会のご案内
第1413回8月31日（水）
クラブフォーラム（2）
担当：出席委員会

会報・広報8月担当 若山 和正